

新しい学校づくり

通信

令和4年1月発行 第2号

(発行元 門真市教育委員会)



第1回 門真市第四中学校区新しい学校設立準備会を開催！

12月17日(金)門真市教育センターにて、第1回の準備会を開催しました。

教育部長の挨拶の後、自己紹介・準備会について・小中一貫教育について話し合いました。序盤は初回ということもあり緊張感ある雰囲気でしたが、会議が進行するにつれざっくばらんに意見を述べ合い、交流することができました。



「小中一貫教育とは？」 西孝一郎先生 講演

まずは小中一貫教育とはどのようなものかを確認するため、京都光華女子大学 西孝一郎准教授をお招きし、「小中一貫教育とはどのようなものでしょう」と題して、小学校と中学校をつなぐ必要性や小中一貫教育の進め方などについて講演いただき、小中学校のリレーゾーンをつくり円滑にバトンパスする大切さを学びました。

また、その後の意見交流にも参加していただき、委員の意見に対して、ご自身の経験に基づいた分かりやすいアドバイスをいただきました。西先生、ありがとうございました。



【意見交流】小中一貫校（義務教育学校）になることについて、どう思いますか？

小学校のPTAは中学校との関わりが少ない。「進路」と言われても今はピンとこない。小中一貫校になったら、そのあたりの見通しが持てるかもしれない。

小中一貫校になり、先生の負担がさらに増えることにならないか心配。

小中一貫校になることで、上の子が下の子の面倒を見てあげられる。共働きなど大変な家庭も多いので、子どもたち同士の関わりが増えることはいいと思う。

新校開校時、中2・中3の生徒は受験がある。急激な変化や先生たちもバタバタして、受験に影響がないか不安。

西先生の話にあったリレーゾーンは大事。小から中にかけて急な変化がある。うちの子どもも中学校の入学当初は小学校の先生に会えずさみしそうだった。学校の先生とも会え、9年間の見通しを持てる小中一貫校はいいと思う。

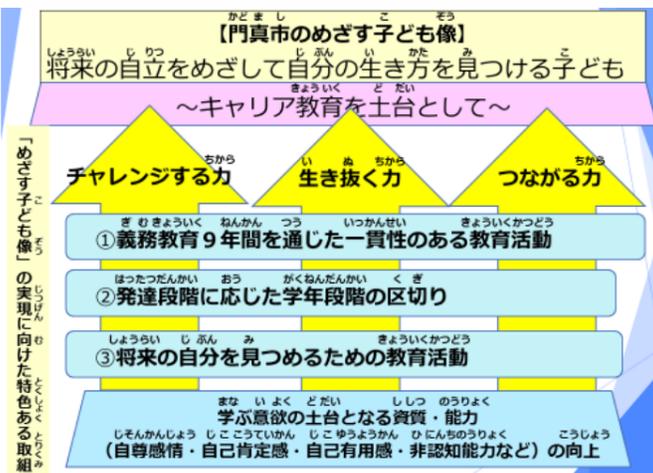
他にも多数の意見をいただきました。

門真市のめざす小中一貫とは？

門真市がめざす小中一貫校(義務教育学校)のコンセプト(案)について教育委員会より説明しました。

めざす子ども像として掲げる「将来の自立をめざして自分の生き方を見つける子ども」の実現に向けて、小中一貫校としての教育課程の編成は、建物の設計と同様にとても大切です。

小6と中1との段差をなだらかにするため、9年間を通じた教育活動や、発達段階に応じた4-3-2制(4年・3年・2年)の学年の区切り(学習内容は、学習指導要領どおりで他校と同様)など、義務教育学校の特色についても説明をしました。



どこに建てるの？ その間の子どもたちはどうなるの？

これから第四中学校区小中一貫校を考えるワークショップ(スクールツクール)等で学校の施設整備について考えていきますが、新校舎の建設を検討する上で、建設場所や建設中の子どもたちの学校生活の確保が重要になります。今回の準備会では教育委員会の検討状況について資料を提示した上で、3つの配置案を説明し、次回の準備会で意見をいただくこととなりました。

新しい学校の建設場所などについては、3校の連携、新校の規模、動線の確保、グラウンドの確保、費用、工期、通学路、建設中の子どもたちの学習や周辺住民への影響など、様々な視点から検討する必要があります。次回以降話し合っていきます。

今後の予定

1st 視察

1月12日(水)
京都市立凌風
小中学校

2nd 第2回

2月8日(火)【予定】
・学校配置案について
・建設中の学校運営について
・通学路について

3rd 第3回

3月末～4月初め頃
・学校整備基本計画(案)について
・R4に検討することについて

担当・お問い合わせ先

門真市教育委員会事務局 教育企画課
電話：06-6902-5779 (直通)
メール：kyk02@city.kadoma.osaka.jp

【HPからもご覧いただけます】

